

## 2016年度・所員活動報告

### 2016 Research Reports

(2016年4月1日～2017年3月31日)

氏名・専門領域	浅井 春夫 ●児童福祉論, セクソロジー
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 浅井春夫 (2016)『戦争をする国・しない国』新日本出版社.</li> <li>2) 浅井春夫 (2017)『「子どもの貧困」解決への道』自治体研究社.</li> <li>3) 浅井春夫, 中西新太郎, 他 (2016)「深刻な実態と解決への処方箋、地域でできること」新日本出版社.</li> <li>4) 浅井春夫 (2016)「食生活の貧困と子ども食堂」日本子どもを守る会編『子ども白書2016』本の泉社.</li> </ol>
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 浅井春夫 (2016.6)「国際セクシュアリティ教育実践ガイドランスの紹介と考察」『保健の科学』第58巻 第6号, pp.383-390, 杏林書院.</li> <li>2) 浅井春夫 (2016.8)「子どもの貧困に抗する政策づくりのために」『住民と自治』640号, pp.6-12, 自治体研究社.</li> <li>3) 「子どもの貧困の現状と乳幼児期の支援」(2016.8～10)『保育通信』短期連載(全3回、通算12頁), 全国私立保育園連盟.</li> <li>4) 浅井春夫 (2016.11)「乳幼児の貧困問題の現実と解決への施策を考える」『まなびあい』第9号, pp.46-57, 立教大学コミュニティ福祉学会.</li> <li>5) 浅井春夫 (2017.1)「子どもの貧困に抗う性教育の可能性」『季刊セクシュアリティ』No.79号, pp.54-63, エイデル研究所.</li> <li>6) 浅井春夫 (2017.3)「戦争孤児たちの戦中・戦後史と児童福祉」『社会事業史研究』第51号, pp.45-59, 社会事業史学会.</li> </ol>
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 浅井春夫 (2016.8)「沖縄戦と戦争孤児が問う『戦争』」『前衛』, pp.65-77.</li> <li>2) 浅井春夫 (2016.4～2017.1) 連載「社会問題をセクソロジーする」第6回～第9回, 『季刊セクシュアリティ』No.76号～79号, 連載継続中.</li> <li>3) 浅井春夫「私の研究と人生のなかの断片的記憶を重ねて」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.117-134, 立教大学.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全国保育団体連絡会 副会長</li> <li>2) “人間と性”教育研究協議会 代表幹事</li> <li>3) 『季刊セクシュアリティ』編集委員</li> <li>4) 日本思春期学会 理事</li> <li>5) 戦争と福祉をみんなで考える会 代表呼びかけ人</li> <li>6) 戦争孤児たちの戦後史研究会 代表運営委員</li> <li>7) NPO法人学生支援ハウスようこそ 理事・事務局長</li> </ol>

氏名・専門領域	飯村 史恵 ●権利擁護論, 福祉マネジメント論
論文	飯村史恵 (2017)「社会福祉実習における個人情報の取扱いと課題—情報共有と同意の観点から—」『福祉情報研究』第14号, (掲載予定), 日本福祉介護情報学会.
資料・研究ノート等	飯村史恵 (2016)「当事者の視点から考える成年後見制度」『コミュニティ福祉研究所紀要』第4号, pp.149-169, 立教大学.

学会発表	飯村史恵 (2016)「社会福祉実習における個人情報の取扱いと課題～関与する主体相互の情報共有の視点から」日本福祉介護情報学会, 兵庫, 12月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 練馬区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定評価・推進委員、権利擁護センター運営委員会副委員長, 法人後見のあり方検討委員会委員</li> <li>2) 文京区社会福祉協議会地域福祉計画推進委員会委員</li> <li>3) 新宿区社会福祉協議会第三者委員, 情報公開・個人情報保護審査会委員</li> <li>4) 西東京市社会福祉協議会発展強化検討委員会委員</li> <li>5) 埼玉県地域福祉推進委員会委員</li> <li>6) 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会副委員長</li> <li>7) 日本福祉介護情報学会理事</li> <li>8) 救護施設あかつきオンブズマン</li> <li>9) 社会福祉法人共働学舎第三者委員</li> <li>10) 一般社団法人日本社会福祉学会広報委員</li> <li>11) 特定非営利活動法人自律支援センターさぼーと理事</li> <li>12) 特定非営利活動法人福祉の資料と情報理事</li> </ol>

氏名・専門領域	石渡 貴之 ●環境生理学, 脳神経科学, 発育発達
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Brian A. Lloyd, Holly S. Hake, Takayuki Ishiwata, Caroline E. Farmer, Esteban C. Loetz, Monika R. Fleshner, Sondra T. Bland, Benjamin N. Greenwood, Exercise increases mTOR signaling in brain regions involved in cognition and emotional behavior, <i>Behavioural Brain research</i>, 323, pp.56-67, 2017.</li> <li>2) Takayuki Ishiwata, Arisa Oshimoto, Takehito Saito, Yasunori Kotani, Shigeki Nomoto, Yasutsugu Aihara, Hiroshi Hasegawa, Benjamin N. Greenwood, Possible mechanisms of hypothermia after inhibition of the median or dorsal raphe nucleus of freely moving rats, <i>NeuroReport</i>, 27, pp.1287-1292, 2016.</li> <li>3) Hisashi Mitsuishi, Shintaro Endo, Takayuki Ishiwata, Kazuo Oishi, The effects of resilience on subjective stress response and salivary secretory immunoglobulin A in university students, <i>Journal of Physical Fitness and Sports Medicine</i>, 5 (4), pp.319-327, 2016.</li> <li>4) Hikaru Nakagawa, Takeru Matsumura, Kota Suzuki, Chisa Ninomiya, Takayuki Ishiwata*, Changes of brain monoamine levels and physiological indexes during heat acclimation in rats, <i>Journal of Thermal Biology</i>, 58, pp.15-22, 2016. (*Corresponding author)</li> </ol>
学会発表	Brian A. Lloyd, Holly S. Hake, Takayuki Ishiwata, Caroline E. Farmer, Esteban C. Loetz, Jennifer C. Burns, Monika R. Fleshner, Sondra T. Bland, Benjamin N. Greenwood, Exercise increases mTOR signaling in brain regions involved in cognition and emotional behavior, Neuroscience 2016, San Diego, USA.
学内・学外における社会的活動等	<p>(社会的活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本体力医学会 評議員</li> <li>2) 日本生理学会 評議員</li> <li>3) 公益社団法人 全国大学体育連合 研修部 副部长</li> </ol> <p>(研究活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文部科学省科学研究費 基盤研究C「自発運動が体温調節及び視策前野/前視床下部の脳内神経伝達物質に及ぼす影響」(2014-2016)</li> <li>2) 小学生の体力及びモチベーション向上に関する実証的研究～産学官連携健康教育～ (2014-2016)</li> <li>3) Research Scholar (3/28/2016-3/27/2017), University of Colorado Denver, Department of Psychology, College of Liberal Arts &amp; Sciences, Exercise Behavioral Neuroscience Laboratory (Dr. Benjamin N. Greenwood Lab.)</li> </ol>

氏名・専門領域	今西 平 ●コンディショニング科学
論文	1) 今西平, 太田洋一 (2016)「垂直跳と下肢等尺性筋力発揮のグレーディング能力の関連性」『トレーニング科学 27 (4)』 pp.133-139. 2) 今西平 (2017)「大学体育実技が受講生の大衆性尺度に及ぼす影響」『身体運動分化論攷 16』 pp.31-45.
学会発表	1) 今西平, 梅林薫 (2016)「走運動における自己と他者の主観的努力度の対応関係」日本体育学会第67回大会, 大阪, 8月. 2) 今西平, 坂内くらら, 木村駿介, 小松陽香, 大石和男 (2016)「ピアノ演奏時における上肢筋活動パターンの再現性」日本生理人類学会第74回大会, 石川, 10月.

氏名・専門領域	大石 和男 ●健康心理学, スポーツ心理学
論文	1) Takayoshi Kase, Shintaro Endo, Kazuo Oishi (2016) Process linking social support to mental health through a sense of coherence in Japanese university students. <i>Mental Health and Prevention</i> , 4: 124-129. (査読有). 2) Hisashi Mitsuishi, Shintaro Endo, Takayuki Ishiwata, Kazuo Oishi (2016) The effects of resilience on subjective stress response and salivary secretory immunoglobulin A in university students. <i>The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine</i> , 5(4): 319-327. (査読有). 3) Kurara Bannai, Takayoshi Kase, Shintaro Endo, Kazuo Oishi (2016) Relationships among performance anxiety, <i>Agari</i> experience, and depressive tendencies in Japanese music majors. <i>Medical Problems of Performing Artists</i> , 31(4): 205-210. (査読有). 4) 遠藤伸太郎, 北見由奈, 満石 寿, 大石和男 (2016)「日本語版インナー스트レンクス尺度 (ISS-J) の開発 —大学生を対象としたデータから—」健康心理学研究, 29 (1): 1-6. (査読有). 5) 嘉瀬貴祥, 坂内くらら, 大石和男 (2016)「成人におけるライフスキルの構成要因: 計量テキスト分析による検討」社会心理研究, 32 (1): 60-67. (査読有). 6) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2016)「高いSense of Coherenceを持つ者のライフスキルの特徴と構造に関する探索的検討」パーソナリティ研究, 25 (1): 93-96. (査読有). 7) 嘉瀬貴祥, 飯村周平, 坂内くらら, 大石和男 (2016)「青年・成人用ライフスキル尺度 (LSAA) の作成」心理学研究, 87(5): 546-555. (査読有). 8) 小松陽香, 木村駿介, 大石和男 (2016)「女性スポーツ選手の体型不満および体型認識の歪みは自尊感情に関係するか」立教大学コミュニティ福祉学会『まなびあい』第9号, pp.147-156. (査読無). 9) 木村駿介, 大石和男 (2016)「運動部活動で経験する困難に関する計量テキスト分析による大学生の調査 (その一): 困難の内容とその認知」立教大学コミュニティ福祉学研究紀要 第4号, pp.1-16. (査読無). 10) 木村駿介, 大石和男 (2016)「運動部活動で経験する困難に関する計量テキスト分析による大学生の調査 (その二): 困難への対処とその後の心理的变化」立教大学コミュニティ福祉学研究紀要 第4号, pp.17-33. (査読無).
学会発表	1) Tetsuya Tanaka, Yutaka Yoshimura, Michio Yasukawa, & Kazuo Oishi (2016) A study of sprint-assisted training for para-swimmers. The 21th European College of Sports Science. Book of Abstract, Vienna, Austria (July, 7-9, 2016). 2) Haruka Komatsu, Shyunsuke Kimura, Takayoshi Kase, Kazuo Oishi (2016) Relationships among body dissatisfaction, cognitive body image, authenticity, and contingent self-esteem for female athletes. The 21th European College of Sports Science. Book of Abstract, Vienna, Austria (July, 7-9, 2016).

<p>学会発表</p>	<p>3) Kurara Bannai, Shintaro Endo, Kazuo Oishi (2016) The relationship between music performance anxiety and psychological performance ability in Japanese college music majors. The 6th Asian Congress of Health Psychology (ACHP 2016), ACHP 2016 Schedule, P24. (July 23th to 24th, 2016, at Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan).</p> <p>4) Kurara Bannai, Shintaro Endo, Kazuo Oishi (2016) The relationship between <i>Agari</i> and the music performance in Japanese college music majors. The 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Book of Abstract (July 24th -29th, 2016 at Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan).</p> <p>5) Takayoshi Kase, Kazuo Oishi (2016) The 31st International Congress of Psychology (ICP2016), Book of Abstract (July 24th -29th, 2016 at Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan).</p> <p>6) 嘉瀬貴祥, 上野雄己, 大石和男 (2016)「攻撃性にSense of Coherenceとライフスキルが与える効果の検討」パーソナリティ心理学会, 2016年9月14日-15日, 於関西大学千里山キャンパス.</p> <p>7) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2016)「攻撃性と対人スキルの関連—攻撃性と対人スキルの構成要因に注目して—」日本社会心理学会第57回大会, 2016年9月17日-18日, 於関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス.</p> <p>8) 今西平, 坂内くらら, 木村駿介, 小松陽香, 大石和男 (2016)「ピアノ演奏時における上肢筋活動パターンの再現性」日本生理人類学会第74回大会, 2016年10月22日-23日, 於和倉温泉観光会館(石川県).</p> <p>9) 嘉瀬貴祥, 大石和男 (2016)「大学生のライフスキルとSense of Coherenceがコンピテンスに与える効果の検討」第63回学校保健学会抄録集, 2016年11月18日-20日, 於筑波大学(筑波キャンパス).</p> <p>10) 矢野康介, 木村駿介, 大石和男 (2016)「大学生における身体運動と感覚処理感受性の関連」第20回日本学校メンタルヘルス学会大会抄録集, 2016年12月9日-11日, 於一橋大学, 東京.</p> <p>11) 小松陽香, 木村駿介, 大石和男 (2016)「学校生活における楽しい場面の想起内容に関するテキストマイニングによる分析—大学生における友人関係の適応感の高低に注目して—」第20回日本学校メンタルヘルス学会大会抄録集, 2016年12月9日-11日, 於一橋大学, 東京.</p>
-------------	---

<p>氏名・専門領域</p>	<p>大山 早紀子 ●地域精神保健福祉, 精神科リハビリテーション, プログラム評価</p>
<p>著書</p>	<p>1) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2016)『精神保健福祉士国家試験模擬問題集2017』中央法規出版株式会社. (分担執筆).</p> <p>2) 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2016)『精神保健福祉士国家試験過去問解説集2017』中央法規出版株式会社. (分担執筆).</p>
<p>論文</p>	<p>大山早紀子, 大島巖 (2016)「重い精神障害のある人が孤立せず主体的な地域生活を継続するために必要な精神科デイケアの機能と役割～アウトリーチ支援を併用する精神科デイケアの全国実状調査の結果から～」. (査読有).</p>
<p>資料・研究ノート等</p>	<p>一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 (2016)「平成28年度精神保健福祉士全国統一模擬試験 2016 精神保健福祉相談援助の基盤」.</p>
<p>学会発表</p>	<p>1) 大山早紀子 (2016)「精神障害のある人のキャリア形成につながる取り組み—キャリアカフェプログラムのもたらす効果から—」日本精神障害者リハビリテーション学会第24回長野大会 口頭発表, 長野, 12月.</p> <p>2) 大山早紀子, 木村尚美 (2016)「どこに向かう!? 精神科デイケア! —これからのデイケアに求められる役割を考える—」日本精神障害者リハビリテーション学会第24回長野大会 自主企画, 長野, 12月.</p>
<p>学内・学外における社会的活動等</p>	<p>1) NPO法人川崎市精神保健福祉家族会連合会あやめ会 地域活動支援センター窓の会 アドバイザー</p> <p>2) リカバリーフォーラム2016「どこに向かう!? 精神科デイケア! —これからのデイケアに求められる役割を考える—」分科会コーディネーター</p>

学内・学外における社会的活動等	3) 文部科学省科学研究費補助金若手研究B「重度精神障害者を対象とした精神科デイケアおよび訪問支援統合化プログラムの効果評価」(平成27年度～平成29年度・研究代表者, 研究課題番号15K17227)
-----------------	--

氏名・専門領域	岡田 哲郎 ●地域福祉, コミュニティワーク, 民俗としての福祉論
学会発表	岡田哲郎 (2016)「個人情報保護法改正がもたらす地域活動への影響に関する一考察」第17回日本福祉介護情報学会, 愛知, 12月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本社会福祉学会関東部会運営委員会運営委員</li> <li>2) ふじみ野市地域福祉計画審議会副会長</li> <li>3) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会運営委員 (地域ささえあいネット担当)</li> <li>4) コミュニティ福祉学部地域連携・協働プロジェクト「地域の宝探しプロジェクト (地域への入り口編)」</li> <li>5) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会主催「平成28年度地域の宝探しワークショップ」ファシリテーター</li> <li>6) 平成28年度東京都社会福祉協議会主催社会福祉士国家試験対策講座「地域福祉と福祉計画」講師</li> <li>7) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会平成28年度中間報告会「ワークショップ～第3次地域福祉地区活動計画策定へ向けて～」ファシリテーター</li> <li>8) 日本福祉介護情報学会「個人情報活用・保護部会」メンバー</li> <li>9) 埼玉県社会福祉士会生活困窮者支援委員会公開研修「地域福祉と貧困問題～地域福祉の視点から見る貧困問題～」講師</li> <li>10) 鴻巣市社会福祉協議会主催「おとな大学ボランティア学科」講師</li> <li>11) 鴻巣市社会福祉協議会成年後見運営委員会運営委員</li> <li>12) 新座市北部第二地区地域福祉推進協議会「第3次北部第二地区地域福祉推進協議会地区活動計画」策定委員長</li> <li>13) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト (石巻拠点, 学生支援担当)</li> </ol>

氏名・専門領域	岡 桃子 ●子ども家庭福祉, 子育て支援におけるコミュニティ・アプローチ, 児童虐待における予防的介入
学会発表	岡桃子, 久野光雄, 小栗香奈子, 須賀田真理, 山本耕太, 米山祐子 (2016) 自主ワークショップ「若手・中堅心理士が考えるコミュニティ・アプローチ」日本コミュニティ心理学会第19回大会, 宇都宮, 6月.
学内・学外における社会的活動等	八王子市子ども家庭部児童青少年課 第3回児童館子ども支援研究会 全体研修会「勇気づけの実践力」講師, 八王子 (2017年3月)

氏名・専門領域	河東 仁 ●宗教学
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「社寺における法定外公共物の維持管理をめぐる諸問題」日本宗教学会『宗教研究 別冊 大会紀要特集』日本宗教学会, 2016年3月, pp.404-405.</li> <li>2) 「西洋におけるmetapsychisches Wesenの探究と記憶術」日本宗教学会『宗教研究 別冊 大会紀要特集』日本宗教学会, 2016年3月, pp.99-100.</li> </ol>
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2016年9月10日, 2016年度宗教学会個人発表 (発表題目は, 上述の紀要特集と同じ).</li> <li>2) 2015年9月6日, 2015年度宗教学会パネル討論会「東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟」にて報告 (発表題目は, 上述の紀要特集と同じ).</li> </ol>

学内・学外における社会的活動等	宮城県南三陸町における復興支援活動
-----------------	-------------------

氏名・専門領域	木下 武徳 ●社会福祉政策
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 木下武徳 (2016)「地域福祉の問題状況—貧困を基底として」井岡勉, 賀戸一郎監修・加藤博史, 岡野英一, 竹之下典祥, 竹川俊夫編『地域福祉のオルタナティブ』法律文化社 (pp.94-106).</li> <li>2) 木下武徳 (2017)「アメリカの福祉」高間満, 相澤譲治, 津田耕一編『社会福祉論』電気書院 (pp.246-250).</li> </ol>
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 木下武徳 (2016)「アメリカにおける移民増加と生活困窮者支援策」『貧困研究』no.17, pp.62-71, 貧困研究会, 明石書店.</li> <li>2) 木下武徳 (2017)「アメリカにおける公的扶助の行政不服審査—日本との比較の視点から—」『國學院経済学』第63巻第3・4合併号, pp.63-84, 國學院大学.</li> <li>3) 木下武徳 (2017)「【調査報告】生活保護利用世帯の暮らしから見た生活課題—地域Aにおける実態調査から—」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.97-112, 立教大学.</li> </ol>

氏名・専門領域	空閑 厚樹 ●生命倫理学, 持続可能な福祉コミュニティ
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 佐藤太, リッチー・ザイン, 宮崎晴子, 空閑厚樹 (2016)「「土」から始める国際化 (Internationalization: Beginning with the Earth) —埼玉県小川町での実践報告—」『まなびあい』, pp.145-158, 立教大学.</li> <li>2) 空閑厚樹 (2016)「コミュニティ・福祉・生命倫理の視点から見る「道」」『愛農』, pp.24-25, 愛農会.</li> <li>3) 空閑厚樹 (2017)「「いのち」への配慮とコミュニティ」『シンビオーシス』, pp.14-18, NGO「地に平和」.</li> </ol>

氏名・専門領域	熊上 崇 ●心理学 (とくに司法領域), 発達障害学
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 熊谷恵子, 熊上崇, 小林玄編著 (2016)『長所活用型指導で子どもが変わる part 5 思春期編』図書文化.</li> <li>2) 日本LD学会編『発達障害事典』編集委員, pp.544-565 第8章「司法」の編集担当, 項目執筆は「少年法」「発達障害と触法行為」「後見・保佐・補助」「自閉スペクトラム症と触法行為」「LDと触法行為」の計5項目 丸善出版.</li> <li>3) 日本犯罪心理学会編『犯罪心理学事典』(項目執筆)「学歴, 知能と犯罪」丸善出版.</li> </ol>
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 熊上崇 (2016)「子どもへの心理発達検査のフィードバック～実務者への質問紙調査の分析と「学習アドバイスシート」の作成」, K-ABCアセスメント研究 18巻, pp.79-88.</li> <li>2) 熊上崇 (2016)「災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援～福島県いわき市の支援団体「みんぷく」と災害公営住宅自治会での調査から～」立教大学コミュニティ福祉研究所紀要第3号, pp.53-68.</li> </ol>
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) T. Kumagami, "University students' interests and support toward a community affected by Great East Japan Earthquake: activities in Iwaki city, Fukushima" 国際心理学会 ICP2016, 横浜, 5月.</li> </ol>

学会発表	2) 熊上崇 (2016) “KABC-IIの結果を、思春期・青年期の子ども達にどのように説明するか” 第19回日本K-ABCアセスメント学会, 福山, 8月. 3) 熊上崇, 熊上藤子, 熊谷恵子 (2016) “心理発達検査の検査者は、どのように子どもにフィードバック面接をしているか” 第25回日本LD学会, 横浜, 11月.
学内・学外における社会的活動等	1) 東京都教育庁地域教育支援部 都立学校「自立支援チーム」支援方針会議委員 2) 公益財団法人家庭問題情報センター鑑定部 刑事事件鑑定人 (東京地方裁判所立川支部) 3) 日本KABCアセスメント学会 理事・初級講習会講師 4) 新座市教育委員会, 新座市いじめ問題対策連絡協議会委員 5) 東京都立豊島高校定時制 運営協議会委員 6) 科学研究費補助金 (基盤研究C)「司法領域におけるアセスメントとフィードバックの研究」, 研究代表者, 2015-2017年度

氏名・専門領域	小長井 賀與 ●司法福祉学, 犯罪社会学, 修復的司法論
著書	1) 小長井賀與 (2016)「世界の保護観察の動向」, 「あとがき」今福章二・小長井賀與編著『保護観察とは何か』法律文化社. 2) 小長井賀與 (2016)「ソーシャル・インクルージョン」, 「社会内処遇におけるグッド・ライブズ・モデル」日本犯罪心理学会編『犯罪心理学事典』丸善出版. 3) 小長井賀與 (2016)「菊田幸一『保護観察の理論』」朴元奎, 太田達也編『リーディングス刑事政策』法律文化社. 4) 小長井賀與「万引きをする高齢者の社会的包摂とコミュニティ形成」万引きに関する有識者研究会編『高齢者による万引きに関する報告書—高齢者の万引きの実態と要因を探る—』東京都.
論文	1) 小長井賀與 (2016)「イギリスの少年司法における社会内処遇」『更生保護学研究』第8巻, pp.79-82, 日本更生保護学会. 2) 小長井賀與 (2016)「オランダの社会内処遇」『更生保護』第67巻10号, pp.56-59, 日本更生保護協会.
学会発表	1) 川邊謙, 小長井賀與 (2016)「犯罪者・触法者の地域社会への再統合支援における課題と地域福祉との連携に関する研究 (1) —更生緊急保護により更生保護施設に入所した更生事例の分析」日本司法福祉学会第17回大会, 神戸市, 8月. 2) 小長井賀與, 川邊謙 (2016)「犯罪者・触法者の地域社会への再統合支援における課題と地域福祉との連携に関する研究 (2) —仮釈放により更生保護施設に入所した更生事例の分析」日本司法福祉学会第17回大会, 神戸市, 8月. 3) 小長井賀與 (2016)「犯罪者等生きづらさを抱える者の社会統合とコミュニティの活性化」, 大阪市立大学第2回先端都市学講座, 大阪市, 1月.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本司法福祉学会理事・学会誌編集委員長・2017年度大会運営準備委員長 2) 日本犯罪社会学会常任理事 3) 日本更生保護学会常務理事 4) 全国更生保護法人連盟評議員 5) 日本更生保護振興財団評議員 6) 保護司研修月刊誌「更生保護」編集委員 7) 早稲田大学社会安全対策研究所招聘研究員 8) 東京都「万引きに関する有識者研究会」委員

氏名・専門領域	権 安理 ●公共哲学, コミュニティ理論
論文	権安理 (2017)「南三陸町における廃校活用を通じたコミュニティの再編成—リベラリズム及びコミュニタリアニズムに依拠した事例研究—」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.1-14, 立教大学.
学会発表	権安理 (2016)「『共通世界 (the common world)』としての公共性—アレントの共通世界と21世紀における公共性の可能性—」第52回経済社会学会全国大会, 麗澤大学, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 立教大学社会学部兼任講師 2) 立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト 3) 立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金 (企画研究プロジェクトⅢ)「被災地における廃校活用を通じたコミュニティの再編成—新たな公共性の創造—」(2016年度, 研究代表者)

氏名・専門領域	坂無 淳 ●社会学, ジェンダー研究
論文	坂無淳 (2017)「保育不足に親たちはどう対処してきたか—埼玉県新座市の団地共同保育の事例から考える」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』第18号, pp.85-101.
資料・研究ノート等	坂無淳 (2016)「書評 妙木忍著『秘宝館という文化装置』(青弓社, 2014年)」『現代社会学研究』第29号, pp.83-88.
学会発表	1) Jun Sakanashi (2016) "The Context, Process and Consequence of Positive Action Policy for Gender Equality in Academia in the Japanese Government and Universities" Third ISA Forum of Sociology, Vienna, Austria, 7月. 2) 坂無淳 (2016)「保育不足に親たちはどう対処してきたか—埼玉県新座市の団地共同保育の事例から考える」第70回ジェンダーセッション講師, 立教大学, 12月.
学内・学外における社会的活動等	1) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト (石巻拠点) 2) 「リサーチ方法論: 社会調査と多変量解析の実際」大学模擬講義講師 (於東京都立墨田川高校), 10月 3) 武蔵大学非常勤講師

氏名・専門領域	佐野 信子 ●スポーツとジェンダー, 体育とジェンダー
資料・研究ノート等	1) 佐野信子 (2016)「大学体育授業における東洋的スポーツの意義について—「太極拳」をてがかりに—」『まなびあい』第9号, pp.179-183, 立教大学. 2) 佐野信子, 藤山新, 井谷聡子 (2017)「多様化社会において個性に応じた保健体育授業を可能とする政策立案に向けた基礎的研究—カナダ・オンタリオ州2015年改訂版保健体育カリキュラムの理念から、インクルーシブな保健体育の示唆を得る—」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.87-96, 立教大学. 3) 佐野信子, 藤山新, 井谷聡子 (2017)「多様化社会において個性に応じた保健体育授業を可能とする政策立案に向けた基礎的研究—カナダ・オンタリオ州2015年改訂版保健体育カリキュラムの理念から、インクルーシブな保健体育の示唆を得る—」『2016年度笹川スポーツ研究助成研究成果報告書』, pp.19-24, 笹川スポーツ財団.
学会発表	佐野信子, 井谷聡子, 藤山新 (2016)「多様化社会において個性に応じた保健体育授業を可能とする政策立案に向けた基礎的研究」日本スポーツとジェンダー学会第15回記念大会, 東京, 7月.

学内・学外における社会的活動等	1) 日本養生学会常任理事 2) 立教大学ウエルネス研究所所員
-----------------	------------------------------------

氏名・専門領域	三本松 政之 ●福祉社会学, 地域社会学
著書	三本松政之 (2016)「現代社会と福祉」三本松政之・坂田周一編『はじめて学ぶ人のための社会福祉』誠信書房.
論文	新田さやか, 三本松政之 (2017)「韓国のハンセン病者と定着村事業の展開過程にみる人権をめぐる課題」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.49-64.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本社会福祉学会学会賞審査委員 2) 科研費助成事業 基盤研究 (B) 海外学術「韓国の社会的バルネラブルクラス支援にみる実践変革型コミュニティ形成に関する研究」研究代表者 (2015年度-2017年度) 3) 葛飾区社会福祉協議会 介護支援サポーター制度運営協議会委員長

氏名・専門領域	柴崎 祐美 ●高齢者福祉, 介護保険, 介護者支援
論文	1) 柴崎祐美 (2016)「介護保険事業所の特徴を生かした家族介護支援に関する一考察～療養通所介護事業所の家族介護者支援調査から～」『コミュニティ福祉研究所紀要』第4号, pp.115-127, 立教大学. 2) 柴崎祐美 (2016)「認知症の疑いのある高齢者と家族に対する早期介入の検討」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.15-26, 立教大学.
学会発表	1) 柴崎祐美 (2016)「介護サービス事業所の特色を生かした家族介護支援～療養通所介護事業所の調査より～」日本ケアマネジメント学会第15回研究大会, 北九州, 6月. 2) 柴崎祐美, 湯本品代 (2016)「認知症高齢者の家族介護者の悩みと支援方法の検討」第17回日本認知症ケア学会, 神戸, 6月. 3) 柴崎祐美 (2016)「認知症介護の初期段階の家族介護者の悩みと支援方法の検討～読売新聞「人生案内」を手がかりに」日本老年行動科学会第19回大会, 神奈川, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 洗足こども短期大学 非常勤講師 2) 品川区社会福祉協議会社会福祉士養成コース 講師 3) 港区特別養護老人ホーム等指定管理者候補者選考委員会委員 4) 平成28年度新座市民総合大学 公開講義「育てていこう! 地域の“わ”～地域包括ケアの話～」講師 5) 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「養老院・養老施設の経営・運営と処遇(ケア)の質に関する研究」(研究代表者: 明治学院大学 岡本多喜子) 分担研究者

氏名・専門領域	芝田 英昭 ●社会保障論
論文	1) 芝田英昭 (2016)「ニュージーランド労働党第1期政権 (1935-1940) と福祉国家建設」『コミュニティ福祉研究所紀要』第4号, pp.35-52, 立教大学. 2) 芝田英昭 (2016)「地域医療構想と国民医療削減への飽くなき野望と医療・介護分野の産業化」『大阪保険医協会雑誌』第44巻599号, pp.18-23, 大阪府保険医協会. 3) 芝田英昭, 松田晋哉, 村上正泰 (2016)「『地域医療構想』を問う」『保険診療』No.1521, pp.7-20, 医学通信社.

論文	<p>4) 芝田英昭 (2016)「社会保障の基本原則を理解する」『学習の友』別冊, pp.18-27, 学習の友社.</p> <p>5) 芝田英昭, 堤未果 (2017)「政府のウソを見抜く力」『住民と自治』通巻646号, pp.6-13, 自治体問題研究所.</p> <p>6) 芝田英昭 (2017)「混合介護弾力化は社会福祉分野産業化を促し介護保険を空洞化する」『診療研究』第525号, pp.29-36, 東京保険医協会.</p> <p>7) 芝田英昭 (2017)「『混合介護』弾力化は社会福祉分野産業化の第一歩」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.27-38, 立教大学.</p> <p>8) 芝田英昭 (2017)「2017年医療・介護改革の行方」『隔月刊社会保障』No.470, pp.4-11, 中央社会保障推進協議会.</p>
資料・研究ノート等	芝田英昭 (2017)「高齢社の定義『75歳以上』に—社会保障の改悪を懸念」『北海道新聞』朝刊, 2017年2月20日号, 北海道新聞.
学会発表	<p>1) Shibata, H. (2016) “Protecting welfare in Japan—Keeping Article 25 of the Constitution of Japan alive” Invitation Lecture of The PSU Center for Japanese Studies, Portland State University, 28 April 2016.</p> <p>2) 芝田英昭 (2016)「地域医療構想の課題」第40回日本医療経済学会総会, 京都, 京都橘大学, 12月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>1) 自治体問題研究所理事 (継続)</p> <p>2) 埼玉県社会保障推進協議会副会長 (継続)</p> <p>3) 医療生協さいたま生活協同組合・社会貢献助成金選考委員会副委員長 (継続)</p> <p>4) 社会保障政策研究会主宰 (継続)</p>

氏名・専門領域	杉浦 克己 ●スポーツ栄養学, 健康栄養学
著書	杉浦克己 (2016)「みんなのスポーツ栄養」『イラストでみる最新スポーツルール'16』pp.16-17, 大修館書店.
論文	<p>1) 杉浦克己 (2017) 東日本大震災被災者の栄養摂取状況 (第2報) 仮設住宅から公営住宅へ. 立教大学コミュニティ福祉学部紀要19号, pp.139-47. 単著</p> <p>2) 杉浦克己 (2017) 審美系と階級制その2. JATI EXPRESS 57号, pp.12-14. 単著</p> <p>3) 杉浦克己 (2016) 審美系と階級制その1 考え方. JATI EXPRESS 56号, pp.8-10. 単著</p> <p>4) 杉浦克己 (2016) 瞬発系と持久系. JATI EXPRESS 55号, pp.8-10. 単著</p> <p>5) 杉浦克己 (2016) 水分補給とスポーツドリンク. JATI EXPRESS 54号, pp.29-31. 単著</p> <p>6) 杉浦克己 (2016) サプリメント IOCの統一見解. JATI EXPRESS 53号, pp.12-13. 単著</p> <p>7) 杉浦克己 (2016) サプリメントその1 定義づけ. JATI EXPRESS 52号, pp.10-11. 単著</p>
資料・研究ノート等	杉浦克己 (2017)「My Life My Golf」『ゴルフトゥデイ』, 2017年4月号, pp.82-84. 取材
学内・学外における社会的活動等	<p>(学外委員)</p> <p>1) 株式会社明治顧問</p> <p>2) 埼玉県新座市健康づくり推進協議会委員</p> <p>3) 埼玉県新座市民総合大学健康増進学部健康づくり学科コーディネーター</p> <p>4) (公財) 日本バレーボール協会科学研究委員会 栄養サポート班 班長</p> <p>5) 日本体力医学会評議員</p> <p>6) NPO法人日本トレーニング指導者協会 (JATI) 参与</p> <p>7) (公社) 日本ボディビル・フィットネス連盟 指導者養成講習会</p> <p>8) (公財) 体力づくり指導協会 高齢者体力づくり支援士養成講習会</p>

学内・学外における社会的活動等	(学内活動) 1) 立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科長 2) 立教大学ウエルネス研究所所員 3) 立教大学体育会拳法部部长
-----------------	---

氏名・専門領域	鈴木 弥生 ●社会開発論
論文	Yayoi Suzuki, Zane Ritchie (2016) <i>A Study on the relevance of poverty to international labour migration —the present situation of Bangladeshi migrants to the United States—</i> 『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』立教大学コミュニティ福祉研究所, 第4号, pp.97-113.
学内・学外における社会的活動等	1) 科学研究費助成事業, 基盤研究C「グローバル化と国際労働移動: バングラデシュ女性労働者の実態調査」(課題番号26380709)に基づく研究・現地調査を行った。 2) 2016年11月, ニューヨーク市に滞在して, 国際労働移動(移住)の研究者であり, <i>Dubai: Gilded Cage</i> (2010) Yale University およびHartmann Douglas との共著 <i>Migration, Incorporation, and Change in an Interconnected World</i> (2015) Routledge の著者であるロングアイランド大学教授 Ali Syed を訪問して, ドバイやアメリカ合衆国における移民労働者の現状および今後の研究について打ち合わせを行った。また, バングラデシュ出身者を中心とする移民労働者から聞き取り調査を継続している(研究実績概要は, 科学研究費助成事業データベース <a href="https://kaken.nii.ac.jp/ja/">https://kaken.nii.ac.jp/ja/</a> 内参照)

氏名・専門領域	富田 文子 ●障害者福祉論, 就労支援サービス, 職業リハビリテーション
著書	1) 富田文子 (2016)「民間企業の障害者雇用率、12年連続で過去最高」日本発達障害連盟著『発達障害白書2017年版』明石書店, p.139. 2) 富田文子 (2016)「第5章第4節 生活を支える諸制度のあらまし」介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 2社会と制度の理解』中央法規, pp.325-340.
資料・研究ノート等	1) 富田文子 (2016)「企業における障害者雇用の課題と自治体による障害者就労支援の在り方の検討」『まなびあい』第9号, pp.118-123. 2) 富田文子 (2016)「安定した就労に向けた障害者と支援機関、そして企業の努力」日本肢体不自由児協会『はげみ12・1月号 特集—卒業後の進路3』第371号, pp.19-21.
学会発表	1) 富田文子 (2016)「東京都A区における障害者の企業就労に向けた就労支援ネットワーク構築の意義と方法及び公共性の有効性についての実践報告」日本職業リハビリテーション学会第44回, 京都, 8月。 2) 富田文子 (2016)「自治体による障害者就労支援のネットワーク構築のための基盤の検討—東京都大田区の事例から—」第7回埼玉県立大学保健医療福祉科学学会学術集会, 埼玉, 9月。 3) 富田文子 (2016)「東京都大田区における就労移行支援事業所連絡会の意義と展開—自治体支援から考える—」第24回職業リハビリテーション研究・実践発表会, 千葉, 11月。
学内・学外における社会的活動等	(講演) 1) 平成28年度職域研究会講師「大田区の障害者就労支援の現状と支援機関との連携構築について」, 2016年7月22日 2) 第36回大田区就労促進懇談会 ポスター発表「大田区の障害者就労ネットワークの仕組みについて」, 2016年11月21日

学内・学外における社会的活動等	<p>(社会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大田区自立支援協議会 就労支援専門部会委員</li> <li>2) 大田区就労支援協力員</li> <li>3) 大田区就労移行支援事業所連絡会外部委員</li> <li>4) さいたま障害者就業サポート研究会事務局員</li> </ol> <p>(研究活動)</p> <p>文部科学省科学研究費(基盤研究C)「重度障害者に対する社会支援に基づく多様な就労形態に関する研究」, 研究委員会委員(研究代表者: 埼玉県立大学 教授 朝日雅也), 2015-2017年度</p>
-----------------	--

氏名・専門領域	外山 公美 ●行政学, 地方自治論
著書	外山公美 (2016)「比較研究の功罪」今川晃編著『自治体政策への提言』北樹出版.
学会発表	外山公美 (2016)「シティ・マネジャー制度の国際的潮流」2017年度日本行政学会, 日本学術会議共催, 東京千代田区(明治大学), 5月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本学術会議連携会員</li> <li>2) 日本オンブズマン学会理事長</li> <li>3) 日本行政学会監事</li> <li>4) 日本法政学会理事・事務局長</li> <li>5) 日本地方政治学会理事</li> <li>6) 日本協働政策学会理事</li> <li>7) NPO法人政策マネジメント研究所理事長</li> <li>8) 港区情報公開運営審議会副会長</li> <li>9) 豊島区政策評価委員会副委員長</li> <li>10) 豊島区入札監視委員会委員</li> </ol>

氏名・専門領域	長倉 真寿美 ●高齢者福祉論, コミュニティケア論
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 長倉真寿美 (2017)「社会の多様性と個の尊重」『Sexuality』no.79, pp.124-127 エイデル研究所.</li> <li>2) 長倉真寿美 (2016)「努力で勝ち取る幸せな生活」『Sexuality』no.78, pp.150-153 エイデル研究所.</li> <li>3) 長倉真寿美 (2016)「高齢者の生と性に関する神話と現実」『Sexuality』no.77, pp.148-151 エイデル研究所.</li> <li>4) 長倉真寿美 (2016)「いつまでも現役、そしてそこにある闘い」『Sexuality』no.76, pp.162-165 エイデル研究所.</li> </ol>
学会発表	長倉真寿美 (2016)「居宅4サービス・3施設+居住系サービス利用指数の保険者間格差の推移と居宅4サービス利用指数「高」及び3施設+居住系サービス利用指数「低」の保険者の地域ケアシステムの特徴」日本地域福祉学会第30回大会, 東京, 6月.
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 豊島区介護保険事業計画推進会議委員</li> <li>2) 豊島区都市計画審議会委員</li> <li>3) 江東区権利擁護センター「あんしん江東」運営委員会委員長</li> <li>4) 江東区地域福祉活動計画策定・推進委員会委員</li> <li>5) (公財) いきいき埼玉 彩の国いきがいの大学「若い世代との交流事業」講師・コーディネーター</li> <li>6) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクト(石巻市)</li> <li>7) 科学研究費助成事業(基盤研究(C))「保険者類型別地域包括ケアシステムの構築方法に関する研究」研究代表者</li> <li>8) 社会福祉士国家試験委員</li> </ol>

氏名・専門領域	濁川 孝志 ●心身ウエルネス
学会発表	1) <i>Effects of outdoor activities on one's sense of spirituality</i> . (2016) 21th European College of Sport Science, Book of Abstract. 2) 自然とスピリチュアリティ (2016) 日本トランスパーソナル学会・日本トランスパーソナル心理学／精神医学合同学術大会 シンポジウム (東京, 11月).
学内・学外における社会的活動等	シンポジウム:「星野道夫とガイアの未来」(立教大学), 2016年12月18日

氏名・専門領域	西田 恵子 ●地域福祉論
著書	西田恵子 (2016)「社会福祉協議会」精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書2017—地域社会での共生に向けて』中央法規出版.
資料・研究ノート等	西田恵子 (2017)「インフォーマルケア」,「孤立死」,「災害ボランティア」,「住民懇談会」,「住民自治」,「地域福祉活動計画」,「地縁型組織」,「地区社会福祉協議会」,「コミュニティワーカー」社会福祉学習双書編集委員会編『社会福祉学習双書2017 学びを深める福祉キーワード集』, 全国社会福祉協議会.
学会発表	1) 西田恵子 (2016)「コミュニティ福祉組織の日常と非日常の連続性—北茨城市大津地区の福祉活動からの考察—」日本地域福祉学会, 東京, 6月. 2) 西田恵子 (2016)「LARA発足の経過にみる危機下の要援護者層支援における民間セクターと公的セクターの協力関係—戦後70年を経た日本における伝承の課題—」日本社会福祉学会, 京都, 9月.
学内・学外における社会的活動等	1) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「ララ救援物資と戦後福祉改革期の公使協働に関わる総合的な研究」研究代表者 (2014-2017年度) 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「養老院・養老施設の経営・運営と処遇(ケア)の質に関する研究」岡本多喜子研究代表者 研究分担者 (2016-2020年度) 3) 水戸市地域福祉推進委員会委員 4) 水戸市社会福祉協議会法人後見受任審査会委員長 5) 那珂市高齢者保健福祉計画推進委員会委員長 6) 茨城県児童館協議会児童館等職員研修「児童館と地域福祉」

氏名・専門領域	沼澤 秀雄 ●運動方法学, コーチング論
著書	野坂和則, 沼澤秀雄監訳 (2016)『ハイパフォーマンスの科学—トップアスリートをめざすトレーニングガイド』NAP.
論文	川井謙太郎, 舟崎裕記, 林大輝, 加藤晴康, 沼澤秀雄 (2017)「投球障害肩症例における投球側と非投球側の肩関節機能の違い」理学療法科学32 (1), pp.39-43.
資料・研究ノート等	沼澤秀雄 (2017)『授業探訪 オリンピック×学生=レボリューション』大学教育研究フォーラム22, pp.68-75, 立教大学 全学共通カリキュラム運営センター.
学会発表	Hakamada, N., Numazawa, H. (2016) 「MORPHOLOGICAL CHARACTERISTICS OF SPORT CLIMBERS」[21st Annual Congress of the European College of Sport Science], Vienna, (Jury).
学内・学外における社会的活動等	1) 日本レジャー・レクリエーション学会 理事長 2) 日本陸上競技連盟普及・育成委員会 幹事 3) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー 4) 日本キッズアスレティックス協会理事 5) 大学スポーツクライミング協会 副会長

学内・学外における社会的活動等	6) 日本陸上競技連盟U13クリニック, U16クリニック 7) 日本陸上競技連盟 公認コーチ講師 ジュニアコーチ講師 8) IAAF CECS Level1 講師 9) キッズアスレティックスインストラクター養成講習会講師 10) 日本サッカー協会指導者育成講習会S級, A級U12講師 11) 日本サッカー協会サッカーアカデミーランニングコーディネーションコーチ
-----------------	--

氏名・専門領域	原田 晃樹 ●地方自治, 行政学, NPO論
論文	原田晃樹「地域活性化の条件と地域の持続可能性の条件」『地方自治職員研修』50巻2号, 2017年2月, pp.21-23. (査読無).
資料・研究ノート等	1) 藤井敦史, 原田晃樹, 熊倉ゆりえ, 菰田レエ也, 今井玲, 朴貞仁『〔公募委託研究シリーズ58〕中間支援組織調査を通して見た日本の労働統合型社会的企業(WISE)の展開と課題』全労済協会, 2016年, 第5章担当(pp.119-163), 総頁数190頁. 2) 沼尾波子, 金井利之, 原田晃樹, 市川佳子『住民自治と社会福祉のあり方に関する調査研究報告書』連合総合研究所, 2016年, 第3章担当(pp.42-57), 総頁数70頁.
学会発表	原田晃樹「農村部におけるWISE—コミュニティ・ビジネス概念からのアプローチ—」日本協同組合学会, 2016年10月9日, 北海道大学(北海道札幌市).
学内・学外における社会的活動等	1) 「共通論題6 ソーシャルセクターにおける評価の動向と課題～社会的インパクトを生み出す仕組みの構築に向けて」(招聘コメンテーター) 日本評価学会第17回全国大会, 2016年11月27日, 広島大学(広島県東広島市) 2) 「分科会C-3 個別自治体の政治学—事例でも標本でもなく—」(コメンテーター) 日本政治学会, 2016年10月2日, 立命館大学(大阪府茨木市) 3) 「生涯現役社会の構築に向けた、高齢者の社会参加や健康いきがづくりのあり方に関する調査研究事業」(平成28年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康等増進事業) 委員 4) 科学研究費補助金基盤研究(C)「サード・セクターの持続的活動を支える政策的・社会的基盤条件に関する日英比較研究」(平成25年度~28年度) 研究代表 5) 公益法人協会「社会的企業研究会」委員 6) 地方自治総合研究所「格差社会と地方自治研究会」委員 7) 大日本印刷株式会社委託研究「地方自治体業務分析」研究代表 8) 子ども子育て支援会議(新座市) 会長 9) 南大塚保育園運営協議会(社会福祉法人豊島区社会福祉事業団) 委員 10) 立教大学サービスラーニングセンターセンター長

氏名・専門領域	原田 峻 ●地域社会学, 社会運動論, NPO論
論文	1) 原田峻(2016)「NPO優遇税制をめぐる立法運動のロビイング戦術」『年報社会学論集』第29号, pp.116-127. (査読有). 2) 原田峻(2017)「NPO法制定・改正をめぐる政策過程と社会運動——ロビイング戦略・組織間連携・帰結の分析」東京大学大学院人文社会系研究科博士論文.
資料・研究ノート等	西城戸誠, 原田峻監修(2017)「福玉便り 2017春の号外」( <a href="http://fukutama.org/wp-content/uploads/2017/03/2017.pdf">http://fukutama.org/wp-content/uploads/2017/03/2017.pdf</a> ).
学会発表	1) 西城戸誠, 原田峻(2016)「県外避難者支援における復興支援員制度の現状と課題——埼玉県を事例として」地域社会学学会第41回大会, 桜美林大学, 5月.

学会発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>2) Harada, S., Nishikido, M. (2016) "Local Social Services to Support Wide-Area Evacuees Following the Great East Japan Earthquake and Fukushima Nuclear Disaster." Third ISA Forum of Sociology, Vienna, 7月.</li> <li>3) 原田峻, 西城戸誠 (2017) 「東日本大震災・福島原発事故から6年の県外避難の現状と課題——埼玉県における自治体・避難者調査の知見から」日本社会学会震災問題情報連絡会第3回東日本大震災研究交流会, 早稲田大学, 3月.</li> </ul>
学内・学外における社会的活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 関東社会学会 研究委員 (2015年7月～)</li> <li>2) パルシステム埼玉 東日本大震災復興支援助成金運営委員 (2015年7月～, 委員長)</li> <li>3) 原田峻 (2016) 「市民・政党等で繰り広げたNPO法制定までのさまざまな議論と, その結論」認定NPO法人まちぽっと主催フォーラム「NPO法の持つ可能性と, 現在の課題」, 四谷地域センター, 9月</li> <li>4) 原田峻 (2017) 「NPO法制定過程を事例としてシチズンシップ教育を考える」認定NPO法人まちぽっと主催フォーラム「NPOとシチズンシップ教育」, 快・決いい会議室, 2月</li> <li>5) 原田峻 (2017) 「埼玉県における広域避難の現状と課題——自治体・避難者調査の知見から」NPO法人埼玉広域避難者支援センター主催シンポジウム「震災から6年, 広域避難者の生活と支援を考える」浦和コミュニティセンター, 2月</li> </ul>

氏名・専門領域	平野 方紹 ●社会福祉行財政, 公的扶助, 障害福祉政策
著書	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 平野方紹 (2017) 「生活の支援と福祉の体系」 「障害者の自立と障害者自立支援制度の目的」 「障害者福祉政策の動向」 高橋伸幸, 平野方紹, 増田雅暢編 『新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解 (第6版)』 中央法規出版.</li> <li>2) 平野方紹 (2017) 「福祉行財政の実施体制」 蟻塚昌克, 関川芳孝編 『社会福祉学習双書2017 社会福祉概論Ⅱ—福祉行財政と福祉計画/福祉サービスの組織と経営—』 全国社会福祉協議会.</li> </ul>
論文	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 平野方紹 (2016) 「障害者の権利擁護—差別とは何かを改めて考える—」 『月刊福祉』 第99巻第5号, pp.32-35, 全国社会福祉協議会.</li> <li>2) 平野方紹 (2016) 「検証 障害者施設利用者殺傷事件の本質とその社会的波紋—「事件を引き起こしたものと」「事件が引き起こしたもの—」 『住民と自治』 通巻第643号, pp.30-34, 自治体問題研究所.</li> <li>3) 平野方紹 (2017) 「障害者差別解消法の意義と課題—成立の経緯と差別解消への期待—」 『実践 成年後見』 No.66, pp.4-11, 民事法研究会.</li> </ul>
資料・研究ノート等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 平野方紹 (2016) 「平野先生の社会保障講座 *第1回「保育待機ゼロ」「介護離職ゼロ」の裏に潜むものを探る」 『そよ風』 No.31, pp.10-11, 埼玉自治体問題研究所.</li> <li>2) 平野方紹 (2016) 「平野先生の社会保障講座 *第2回 社会保障の危機的状況をどうとらえるのか」 『そよ風』 No.32, pp.14-15, 埼玉自治体問題研究所.</li> <li>3) 平野方紹 (2017) 「平成29年度障害保健福祉部予算から見えてくるものは何か」 『ノーマライゼーション』 第37巻第3号通巻428号, pp.40-41, 日本障害者リハビリテーション協会.</li> </ul>
学会発表	平野方紹 (2017) 「障害者差別解消法—地方自治体の福祉現場から—」 日本音響学会 2017年春季研究発表会, 川崎市, 3月.
学内・学外における社会的活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 立教大学ボランティアセンター長</li> <li>2) 内閣府障害者差別解消支援地域協議会の在り方検討会構成員</li> <li>3) 総務省投票環境の向上方策に関する研究会委員</li> <li>4) 厚生労働省障害者総合支援法対象疾病検討会副会長</li> <li>5) さいたま市障害者政策委員会委員長</li> </ul>

学内・学外における社会的活動等	6) さいたま市地域密着型サービス運営委員会委員長 7) さいたま市社会福祉法人設立認可等審査委員会委員 8) 川越市社会福祉審議会委員 9) 新座市障がい者施策委員会委員長 10) 志木市自立支援協議会会長 11) 社会福祉法人全国社会福祉事業団協議会評議員 12) 公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
-----------------	--

氏名・専門領域	藤井 敦史 ●NPO論, 社会的企業論
著書	藤井敦史 (研究代表者), 原田見樹, 熊倉ゆりえ, 菰田レエ也, 今井玲, 朴貞仁『(公募委託研究シリーズ58) 中間支援組織調査を通して見た日本の労働統合型社会的企業 (WISE) の展開と課題』全労済協会, 2016年11月発行.
学会発表	藤井敦史「「連帯経済」を紡ぎ出す社会的企業」, (ラウンドテーブル: 東日本大震災被災地東北の復興活動に見る社会・連帯経済の可能性) 国際開発学会 (広島大), 2016年11月26日.
学内・学外における社会的活動等	1) 日本NPO学会常務理事 (学術担当) 2) 社会的企業研究会会長 3) アジア太平洋資料センター (PARC) 理事 4) 生活クラブ生協神奈川ユニオン理事 5) 市民セクター政策機構理事 6) 生協総合研究所評議員

氏名・専門領域	松尾 哲矢 ●スポーツ社会学, スポーツプロモーション論
著書	1) 松尾哲矢 (2016)「スポーツとコミュニティ」友添秀則, 岡出美則編『新装訂版教養としての体育原理—現代の体育・スポーツを考えるために—』大修館書店. 2) 松尾哲矢他 (2017)「第3章子どものスポーツ」渡邊一利責任編集『スポーツ白書～スポーツによるソーシャルイノベーション』笹川スポーツ財団. 3) 松尾哲矢 (2017)「I. スポーツとは、II. スポーツルールの考え方」『日本ゲートボール連合 審判員テキスト』(公財) 日本ゲートボール連合.
論文	村本宗太郎, 松尾哲矢 (2016)「大学運動部員における高校期の被体罰経験と運動部空間の特性に関する研究」『コミュニティ福祉研究所紀要』第4号, pp.85-96, 立教大学.
資料・研究ノート等	1) 松尾哲矢 (2016)「書評 レジャー・スタディーズ (渡部潤編 (2015)『レジャー・スタディーズ』世界思想社)」『スポーツ社会学研究』第24巻第2号, pp.76-79, 日本スポーツ社会学会. 2) 松尾哲矢 (2016)「学部付属研究所の強みを生かす—教育と研究の往還運動」『コミュニティ福祉研究所NEWS』Vol.7, p.1, 立教大学.
学会発表	1) 村本宗太郎, 松尾哲矢 (2016)「運動部員における体罰の捉え方及び意識変容に関する研究—大学バレーボール部員に対する高校運動部をめぐる回顧的調査から—」(一社) 日本体育学会第67回学会大会, 大阪, 大阪体育大学, 8月. 2) 種谷大輝, 松尾哲矢 (2016)「運動部における補欠のアンビバランスに関する実証的研究—大学準硬式野球部員に着目して—」(一社) 日本体育学会第67回学会大会, 大阪, 大阪体育大学, 8月. 3) 中山健二郎, 松尾哲矢 (2017)「高校野球に纏わる「物語」のダイナミズムを読み解く分析枠組について」日本スポーツ社会学会第26回学会大会, 長野, 信州大学, 3月.

学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) スポーツ庁 健康スポーツ課施策等検討会議 委員</li> <li>2) スポーツ庁 平成28年度体力・スポーツに関する世論調査の質問項目検討会 委員</li> <li>3) スポーツ庁 スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP) フォローアップ 評価委員会 委員</li> <li>4) 文部科学省スポーツ・青少年局長 スポーツ・青少年局スポーツ振興課技術審査委員会 技術審査専門員</li> <li>5) 東京都スポーツ振興審議会 委員</li> <li>6) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 委員</li> <li>7) (公財) 日本体育協会公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト 座長</li> <li>8) (公財) 日本体育協会指導者育成専門委員会 スポーツ指導者育成事業推進プラン戦略会議 座長</li> <li>9) (公財) 日本体育協会東京オリンピック・パラリンピック支援室プロジェクト 委員長</li> <li>10) (公財) 日本レクリエーション協会 理事</li> <li>11) (一社) 日本体育学会 代議員</li> <li>12) (一社) 日本体育学会 体育社会学専門領域 事務局長</li> <li>13) 日本スポーツ社会学会 理事</li> <li>14) 日本レジャーレクリエーション学会 常任理事</li> <li>15) 日本スポーツ産業学会 理事</li> </ol>
-----------------	---

氏名・専門領域	安松 幹展 ●運動生理学, フットボールサイエンス
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) JFA2016指導指針作成ワーキンググループ—山口隆文, 安松幹展 他— (2016) 『JFA 指導指針2017』 pp.36-39, pp.80-87, 公益財団法人日本サッカー協会.</li> <li>2) David Joyce &amp; Daniel Lewindon, High performance-Training for sports-, 野坂和則, 沼澤秀雄 監訳 (2016) 『ハイパフォーマンスの科学—トップアスリートをめざすトレーニングガイド—』 安松幹展 「第21章チームスポーツにおける最適なプレシーズントレーニング (pp.285-298)」 「第23章シーズン中におけるコンディションの維持 (pp.309-328)」 ナップ.</li> </ol>
資料・研究ノート等	安松幹展 (2017) 「サッカーの科学的トレーニング2—サッカー選手に対する体力テストの理論と実践例」 『2017高校サッカー年鑑』 (公財) 全国高等学校体育連盟サッカー専門部編, pp.230-231, 講談社.
学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Yasumatsu, M., Hayakawa N. (2016) “Physical Fitness Project of Japan Football Association for the National Teams” The 1st Japan-Korea Joint Congress on Science and Football, Fukuoka, 10月.</li> <li>2) Yasumatsu, M. (2016) “Physical Fitness Project of Japan Football Association for FIFA World Cups” Denmark-Japan Sports days-How can JP-DK collaboration contribute to better performance of professional athletes worldwide-, Tokyo, 5月.</li> <li>3) 安松幹展 (2016) 「サッカーの暑熱環境対策」 デンマークライフサイエンスセミナー「スポーツサイエンスの成果を実践に—プロ選手の成績向上と健康社会実現に向けたデンマークの取り組み」, 東京, 5月.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本体力医学会評議員</li> <li>2) 日本フットボール学会副会長</li> <li>3) 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会「スポーツ活動中の熱中症予防に関する研究」研究班員</li> <li>4) 国立スポーツ科学センタースポーツ・医科学事業研究分担者</li> <li>5) アジアサッカー連盟フィットネスコーチインストラクター</li> <li>6) (公財) 日本サッカー協会技術委員会フィジカルフィットネスプロジェクトメンバー</li> <li>7) (公財) 日本サッカー協会技術委員会技術委員会指導部会部員</li> <li>8) (公財) 埼玉県サッカー協会科学研究委員会委員</li> </ol>

氏名・専門領域	山口 綾乃 ● Medical Sociology, Health Psychology, Intercultural Communication, Social Science Research Methods (Quantitative and Qualitative Methods, Mixed Method), Specialization in Culture, Social Capital, Health and Well-Being including Disaster
論文	<p>1) Yamaguchi, A., Kim, M.S., &amp; Akutsu, S. (2016). "The Effects of Self-Construals and Interactive Constraints on Consumer Complaint Behaviors across Cultures," <i>Psychological Studies</i>, October, pp. 1-12.</p> <p>2) Akutsu, S., Yamaguchi, A., Kim, M.S., &amp; Oshio, A. (2016). "Self-Construals, Anger Regulation, and Life Satisfaction in the United States and Japan," <i>Front. Psychol.</i> vol.7 no.768, 31 May, pp.1-12. (政策研究大学院大学 (GRIPS) 政策研究センター2016年平成28年度国際学術雑誌掲載奨励制度受賞)</p> <p>3) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., &amp; Akutsu, S. (2016). "Relationship between Bicultural Identity and Psychological Well-Being among American and Japanese Older Adults," <i>Health Psychology Open</i>, vol.3, no.1, January-June, pp.1-12.</p>
学会発表	<p>1) Yamaguchi, A., Kim, M.S., Oshio, A., &amp; Akutsu, S. (2016). "The Role of Anger Regulation on Perceived Stress Status and Chronic Conditions in Japan and the U.S." National Communication Association (NCA) in Philadelphia, PA, US., Japan-US Communication Association, 11月.</p> <p>2) Kim, M.S., Yamaguchi, A., Oshio, A., &amp; Akutsu, S. (2016). Relationship Between Bicultural Identity and Psychological Well-Being Among Japanese and American Older Adults. National Communication Association (NCA) in Philadelphia, PA, US., Japan-US Communication Association, 11月.</p>
学内・学外における社会的活動等	<p>(Research Awards and Contributions)</p> <p>1) 国際学術雑誌掲載奨励制度受賞 (2016年, 平成28年度, 政策研究大学院大学)</p> <p>2) 政策研究大学院大学政策研究センター リサーチ・プロジェクト 研究助成金性格特性と文化的自己観が健康とウェルビーイングに与える影響の分析の研究 (Effects of Personality Traits and Self-Construals on Health and Well-Being), 研究代表者 (平成28-29年度, 政策研究大学院大学)</p> <p>3) 大塚製薬様とのエグゼクティブセミナー (産学連携) 開催 (研究代表者)</p> <p>4) 独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者</p> <p>5) National Communication Association (NCA) Paper Reviewer 論文審査委員 (Conference Members)</p> <p>6) International Communication Association (ICA)</p> <p>7) National Communication Association (NCA)</p> <p>8) 日本社会学会</p> <p>9) Hawaii Sociological Association (HSA)</p> <p>10) 日本保健医療社会学会</p> <p>11) America Sociological Association (ASA)</p> <p>12) Society for the Study of Social Problems (SSSP)</p> <p>13) 日本コミュニケーション学会</p> <p>(Research Collaborations)</p> <p>14) Cross-Cultural Health and Well-Being Research Project Partner and Research Collaborator (Equal Authorship, ハワイ大学, イーストウエストセンター, 一橋大学, 早稲田大学)</p> <p>15) MIDUS and MIDJA Research Project Partner (ミシガン大学, ウィスコンシン大学, スタンフォード大学, 東京大学, 東京女子大学)</p> <p>16) Global Health Innovation Policy Program (GHIPP) Partner (政策研究大学院大学)</p> <p>17) Social Capital Research Project Partner (ハーバード大学など)</p> <p>18) 科学研究費助成事業 (基盤研究C) "Effects of Personality Traits and Self-Construals on Life Orientations" 研究代表者</p>

氏名・専門領域	結城 俊哉 ●ノーマライゼーション論, 障害者福祉論, 福祉文化論
著書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 結城俊哉 (2016)『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』(第2刷) 高菅出版.</li> <li>2) 結城俊哉 (2016)「地域福祉を支える担い手とその学び—3.11 震災・被災体験者の語り—」手打明敏・上田孝典編著『〈つながり〉の社会教育・生涯学習—持続可能な社会を支える学び』東洋館出版社.</li> <li>3) 結城俊哉 (2017)「Ⅲ 精神保健福祉に関する調査研究」精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『第2巻 精神保健学—精神保健の課題と支援』へるす出版.</li> </ol>
論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 結城俊哉 (2016)「ノーマライゼーション理念における障害者の多様性問題に関する検討～「共に生きる」ための障害者福祉学の構想～」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』第4号, pp.69-83, 立教大学コミュニティ研究所.</li> <li>2) 結城俊哉 (2017)「3.11 東日本大震災を経験した障害者と支援実践の経験から学ぶ『コミュニティ再建のリジリエンス』とは何か—リジエント・コミュニティ構想の萌芽として山元町『工房地球村』の実践から—」『コミュニティ福祉学部紀要』第19号, pp.65-86, 立教大学.</li> </ol>
資料・研究ノート等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 結城俊哉 (2016)「地域における障害者の自立と共生の支援試論」『立教大学コミュニティ福祉学会“まなびあい”』第9号, pp.133-144.</li> <li>2) 結城俊哉 (2017)「戦争をとおして戦中・戦後の家族と福祉文化を考える」『福祉文化研究』Vol.26, pp.30-32, 日本福祉文化学会.</li> <li>3) 結城俊哉 (2016)「戦争について福祉労働者として考えておくべきこと～過去の歴史と現状を踏まえて～」、『月刊 医療労働7月号』No.592, pp.25-30.</li> <li>4) 結城俊哉, 手打明敏, 上田孝典, 池谷美衣子, 丹間康仁編 (2017)『3・11以後、山元町で生きる～被災コミュニティで暮らす住民の記憶のアーカイブ～』科学研究助成事業「挑戦的萌芽研究」(課題番号: 25550100)「震災後社会におけるリジエント・コミュニティ構想に向けた基礎的研究」報告書(全278頁).</li> </ol>
学会発表等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 結城俊哉 (2016)「戦争と福祉労働の関係について」第28回障害者福祉と児童福祉全国学習交流会(日本医療労働組合連合会), 東京, 5月.</li> <li>2) 結城俊哉 (2016)「発表A: 方法・技術2」(全体統括者担当), 日本社会福祉学会(第64回秋大会), 京都, 9月.</li> <li>3) 結城俊哉 (2016)「障害当事者相談員がケアの担い手として必要なこと」埼玉県障害者福祉協会, 埼玉(熊谷), 11月.</li> <li>4) 結城俊哉 (2016)「障害当事者相談員がケアの担い手として必要なこと」埼玉県障害者福祉協会, 埼玉(浦和), 12月.</li> <li>5) 結城俊哉 (2016)「戦争をとおして戦後の家族・福祉文化を考える.(コーディネーター)」第27回日本福祉文化学会全国大会, 東京, 10月.</li> <li>6) 結城俊哉 (2016)「障害者の障害の重度化に伴う暮らしの変化の理解」渋谷介護サポートセンター(服部メディカル研究所), 東京, 12月.</li> <li>7) 結城俊哉 (2017)「高齢化する障害者の生活を考える」渋谷介護サポートセンター(服部メディカル研究所), 東京, 1月.</li> <li>8) 結城俊哉 (2017)「高齢・障害者の尊厳の保持と自立支援～介護福祉の理念から～」調布市高齢・障害者家事援助ヘルパー養成研修, 東京, 2月.</li> <li>9) 結城俊哉 (2017)「(現場セミナー) 戦争と福祉～沖縄を考える Part1: 平和の文化を育てるために」(シンポジスト発表報告) 日本福祉文化学会・沖縄福祉文化を考える会, 沖縄, 2月.</li> <li>10) 結城俊哉 (2017)「障がい者虐待防止について考える」調布市社会福祉協議会福祉人材育成センター研修事業, 東京, 3月.</li> <li>11) 結城俊哉 (2017)「対人援助の専門家がケアの担い手として必要なこと」社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会, 東京, 3月.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「日本福祉文化学会」東京大会実行委員(評議委員)</li> <li>2) 東京都調布市福祉人材育成センター運営委員長</li> <li>3) 茨城県守谷市福祉有償運送等運営協議会委員長</li> </ol>

学内・学外における社会的活動等	4) 社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会運営評議員 5) 首都大学東京・非常勤講師 6) 日本女子大学・非常勤講師 7) 「福祉学科」教務委員・全カリサポーター・実習委員 8) 立教大学コミュニティ福祉学会「まなびあい」事務局長 9) 科学研究助成事業「挑戦的萌芽研究」(課題番号: 25550100) 「震災後社会におけるリジエント・コミュニティ構想に向けた基礎的研究」(2013年度～2016年度)(研究代表)
-----------------	---

氏名・専門領域	湯澤 直美 ●児童福祉, 貧困研究, ジェンダー学
著書	1) 湯澤直美 (2016)「女性の人権保障の視角から銚子市母子心中事件を問う」井上英夫, 山口一秀, 荒井新二編『なぜ母親は娘を手にかけてのかー居住貧困と銚子市母子心中事件』pp.75-87, 旬報社. 2) 松本伊知朗, 湯澤直美, 平湯真人, 山野良一, 中嶋哲彦編 (2016)『子どもの貧困ハンドブック』明石書店.
論文	1) 湯澤直美 (2016)「母子世帯をめぐる死亡事件と貧困: 公営住宅強制退去・「心中」未遂事件からの考察」『貧困研究』, pp.46-59, 明石書店. 2) 高橋恵子, 金田利子, 平井美佳, 平田修三, 湯澤直美, 藤田英典 (2016)「子どもの発達にとって「貧困問題」とは何か」『教育心理学年報』55 (0), pp.283-294, 一般社団法人 日本教育心理学会. 3) 湯澤直美 (2016)「都道府県における子どもの貧困対策計画の策定状況: 妊娠・出産期、乳幼児期をいかに位置付けるか」『都市問題』107 (6), pp.9-15, 後藤・安田記念東京都市研究所. 4) 湯澤直美 (2016)「子どもの貧困対策と自治体行政: 子どもの貧困対策推進法・生活困窮者自立支援法」『公衆衛生』80 (7), pp.496-501, 医学書院. 5) 湯澤直美 (2016)「地方自治体における子どもの貧困対策: 実態把握による貧困の可視化」国際文化研修 23 (4), pp.24-29, 全国市町村国際文化研修所.
資料・研究ノート等	1) 湯澤直美 (2016)「日本におけるひとり親家族の現状—多様な家族の共生社会に向けて」『こころの健康シリーズⅦ 21世紀のメンタルヘルス』公営財団法人日本精神衛生会. 2) 秋田喜代美, 湯澤直美 (2016)「対談 子どもの学びと育ち」『教育の再定義 第1巻 変革への展望』岩波書店. 3) 湯澤直美 (2016)「貧困の計測と削減目標の設定を: 「子どもの貧困」大綱見直しに向けて何が必要なのか?」『週刊金曜日』24 (26), pp.28-29. 4) 湯澤直美 (2016)「ひもとく 子どもの貧困」『朝日新聞』7月9日朝刊 朝日新聞社. 5) 東京市町村自治調査会 (2016)『基礎自治体における子どもの貧困対策に関する調査研究報告書』監修担当. 6) 一般社団法人沖縄県子ども総合研究所 (2017)『沖縄子どもの貧困実態調査事業・報告書』(協力研究者) 7) 日本生活協同組合連合会「子どもの貧困」に関する研究会 (2017)『「貧困」の連鎖をなくしていくために生協ができること～子どもをひとりぼっちにしない地域づくり～』(研究会委員)
学内・学外における社会的活動等	<b>【学内活動】</b> 1) コミュニティ福祉学部人事委員長・研究倫理委員会委員・実習委員会委員 2) コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援推進室長 <b>【社会的活動】</b> 1) 日本学術会議連携会員 2) 日本社会福祉学会理事 3) 基礎教育保障学会理事

学内・学外における  
社会的活動等

- 4) 厚生労働省「婦人相談所・婦人相談員・婦人保護施設職員の婦人保護事業研修体系に関する調査・検討ワーキングチーム」委員長
- 5) 厚生労働省「在宅就業推進事業検討委員会」委員
- 6) 全国社会福祉協議会・母子生活支援施設協議会中央推薦協議委員
- 7) 埼玉県男女共同参画審議会委員
- 8) かながわ子どもの貧困対策会議委員長
- 9) 富山県青少年健全育成審議会委員
- 10) 横浜子ども貧困対策に関する計画策定推進会議委員
- 11) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会子ども・若者総合支援事業運営委員会委員長
- 12) 東京都社会福祉協議会「低所得世帯の子どもへの支援構築プロジェクト」委員長
- 13) 東京都社会福祉協議会「平成27年度 自立生活スタート支援事業運営審査委員会」副委員長
- 14) 社会福祉法人「礼拝会」評議員
- 15) 社会福祉法人「ベテスタ奉仕女母の家」理事
- 16) 一般社団法人「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」理事
- 17) 一般社団法人「東京都ひとり親家庭福祉協議会」評議員
- 18) 『貧困研究』（明石書店）編集委員会委員
- 19) 朝日新聞厚生事業団朝日こどもの貧困助成事業審査委員
- 20) 社会福祉系学会連合事務局長
- 21) 吉川市地域福祉計画策定委員会委員長
- 22) 首都大学東京「子ども・若者貧困研究センター」センター員

**【講演・研修等】**

- 1) 第38回全国母子生活支援施設職員研修会講師「女性の貧困・子どもの貧困と母子生活支援施設での支援」7月。
- 2) 世田谷区「子どもの貧困対策シンポジウム」講師, 6月。
- 3) 同志社大学社会福祉教育・研究支援センターセミナー「自治体における子どもの貧困対策の動向」講演, 7月。
- 4) 日本弁護士連合会「モデル条例案から考える, 地域で進める子どもの貧困対策セミナー」講師, 7月。
- 5) 全国社会福祉協議会全国保育協議会「保育21世紀セミナー2016 コース別研修」講師, 8月。
- 6) 吉川市子どもの貧困問題庁内連絡会議特別セミナー「子どもの貧困問題を考える」講演, 9月。
- 7) 港区「子どもの未来応援施策理解促進事業講演会」シンポジウム講演, 9月。
- 8) 第70回関東地区母子寡婦福祉研修大会「日本における子どもの貧困問題とひとり親家庭に求められる支援」講演, 9月。
- 9) 公益財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所「平成28年度政策・実務研修 子どもの貧困対策」講師, 10月。
- 10) 板橋区児童館職員研修, 「子どもの貧困」11月。
- 11) 朝日新聞厚生文化事業団「朝日こどもの貧困対策フォーラム」基調講演「こどもの貧困の現状と未来につなげる支援」, 3月。
- 12) 豊橋市研修会講師「子どもの貧困問題—現状と解決策を考える」2月。
- 13) 東京都児童館等連絡協議会第1ブロック第4ブロック研修会, 「子どもの貧困に、居場所としての児童館・学童クラブは何かできるか」3月。

**【研究活動】**

- 1) 科学研究費助成事業基盤研究 (B)「自治体における包括的子どもの貧困対策の形成・評価に関する研究」研究代表者
- 2) 科学研究費助成事業基盤研究 (A)「子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して」研究分担者
- 3) 科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究「格差貧困に抗する成人基礎教育学にむけて—領域横断的な共同探求ネットワークの構築」研究分担者
- 4) 沖繩県子どもの貧困調査研究協力者
- 5) 日本生活協同組合連合会「『子どもの貧困』に関する研究会」委員

学内・学外における社会的活動等	6) 全労済協会「格差・貧困の拡大の原因と是正施策に関する研究会」委員 7) 黒部市・高岡市・南砺市・砺波市「子どもの貧困に係る実態調査」調査票作成協力 8) 足立区「ひとり親家庭実態調査」調査票作成協力・聞き取り調査実施
-----------------	---

氏名・専門領域	LEITNER Katrin Jumiko ●スポーツマネジメント
論文	1) Kiku, K., Leitner, K.J. (2017) "'Depression' after Tōkyō 2020? Characteristics of Japan's sport policy and the 2020 Tōkyō Olympics and Paralympics", <i>Minikomi. Informationen des Akademischen Arbeitskreises Japan</i> , Nr. 86, pp.29-35, Akademischer Arbeitskreis Japan. Österreichische Japangesellschaft für Wissenschaft und Kunst. 2) ライトナー・カトリン・ユミコ (2017)「第2章 オーストリアにおけるスポーツ組織の現状と課題」『新しい公共』形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する国際比較研究』, pp.11-29 平成25年度～28年度 科学研究費助成金「基盤研究 (B)」研究成果報告書 (研究代表者: 菊幸一). 3) ライトナー・カトリン・ユミコ (2017)「第3章 ドイツDOSBの成立経緯と現状及び課題」『新しい公共』形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する国際比較研究』, pp.31-43 平成25年度～28年度 科学研究費助成金「基盤研究 (B)」研究成果報告書 (研究代表者: 菊幸一).
学会発表	Leitner, K.J. (2016) "Japanese Student Athletes: How to Arrange an Elite Sport Career with Higher Education in Japan." ECSS 21 <sup>st</sup> European College of Sport Science Congress, Vienna, July.
学内・学外における社会的活動等	特定非営利活動法人スマイルクラブ 理事

氏名・専門領域	リッチー ザイン ●史学, 言語学
著書	<i>Peace as a Global Language Peace and Welfare in the Global and Local Community</i> . Tina Ottman, Zane Ritchie, Hugh Palmer and Daniel Warchulski (eds). iUniverse, Bloomington, IN (2016). Warchulski, D., Ritchie, Z. (2016). Multiculturalism: Misconceptions, misunderstandings and the current state of Affairs. <i>Peace as a Global Language Peace and Welfare in the Global and Local Community</i> . Tina Ottman, Zane Ritchie, Hugh Palmer and Daniel Warchulski (eds.) iUniverse, Bloomington, IN. pp. 180-195.
論文	1) Ritchie, Z., Short, J. (2016). Towards the enhancement of resilience in a Disaster Management context: The contribution of the Student Volunteer Army to community reconstruction in the aftermath of the Christchurch Earthquakes of 2010 and 2011. 立教大学コミュニティ福祉学部『まなびあい』9, pp.145-158. 2) Suzuki, Y., Ritchie, Z. (2016). A study on the relationship between poverty and international labor migration –the present situation of Bangladeshi Migrants to the United States. 『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』4, pp.97-115.
資料・研究ノート等	Ritchie, Z., Short, J. (2016). The Christchurch Earthquakes of 2011 & 2012: altruism and volunteerism in times of adversity – A discussion with the President of the Student Volunteer Army. 『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』4, pp.129-149.

学会発表	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Ritchie Z. (2016). Outreach and Educational Activities at a Nairobi Slum School. PanSig 2016, Nago, Okinawa.</li> <li>2) Ritchie, Z. (2016). The Setting up of a Computer Lab in a Nairobi Slum. 大東文化会館, 2016. 6.</li> <li>3) Ritchie., Z (2016). The State of English Language Teaching in Japan: Lessons for Rwanda. Peace as a Global Language Conference, Mount Kenya University, Rwanda, 2017. 3.</li> <li>4) Kitamura, Y., Ritchie, Z. (2016). Teachers 'Backgrounds vs Learner Expectations in Japan. TESOL Arabia, The Ritz-Carlton Hotel, Dubai, 2017. 3.</li> <li>5) Ritchie., Z. (2016). The State of the Nairobi Slum School Computer Lab: A Year on. PanSig 2017; Akita International University, 2017.5.</li> </ol>
学内・学外における社会的活動等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2016年度 立教大学コミュニティ福祉学部 大川町プログラムの副担当</li> <li>2) 2016.6 コミュニティ福祉学部主催の国際交流会の担当</li> <li>3) 2016.6 2016年度立教大学コミュニティ福祉研究所 海外派遣研究員採択</li> <li>4) 2017.3 ケニアナイロビ市のスラム学校でのテキストのデジタル化に従事, パソコン・ラボ設置 (二回目)</li> <li>5) 2017.3 ケニアとラワンダでの Peace as a Global Language 学会とスラム学校ツアーの引率</li> <li>6) Peace as a Global Language 学会委員会員</li> </ol>